

神木の的狙い矢放ち

名前

① 「百手の儀式」は、どのような「と」で始まったのでしょうか？

② この記事を読んだ感想を書きましょう。

平家伝説が残る香美町香住区余部の御崎地区で28日、若手男性3人が合計101本の矢を射る伝統行事「百手の儀式」があった。約3分離れた神木のイチヨウに付けられた的に、次々と矢を放ち、命中すると見物客から拍手が湧き起こった。
(斎藤雅志)

伝統行事「百手の儀式」

香住・御崎 若手男性3人が計101本

地元では、壇ノ浦の戦いで敗れた平家の武将が、日本海から流れ着いて土着したと伝えられている。百手の儀式は、平家の無念を晴らし、再興を願って武術の腕を磨くため、数百年前から受け継がれてきたとされる。

今年、射手は、会社員松上佳弘さん(34)、同町職員麻田卓司さん(27)、会社員岡田良さん(34)のみ。かみしも姿で竹弓を持った3人は、矢持ち役の小学生や自治会長、宮総代と一緒に

に「控え、控え、脇に寄れ」の掛け声に合わせて

かみしも姿で練り歩き

練り歩き、平内神社に向かった。境内に到着すると、3人はかがり火を背にして石段の上に立ち、次々に矢を放った。岡田さんは13歳で初めて射手を務め、今回は数年ぶり。「今回も射手をしたけど、的の真ん中にはなかなか当たらない」とはにかみ、「伝統をこれからも残していきたい」と話していた。



④的に向かって弓を引き絞る射手 ⑤「控え、控え、脇に寄れ」の掛け声を上げて練り歩く住民たち＝いずれも香美町香住区余部

